

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○				○	○	○	○		○		○	

## 企業の概要

企業・団体名	特定非営利活動法人札幌チャレンジド	本社所在地	札幌市
業種	医療、福祉	総従業員数	40人
事業概要	障がい者の就労支援、就職支援及び障害児への療育。就労支援は、企業からデータ入力等のIT系業務を受託し、障がい者が従事する。		

## テレワーク実施概要

雇用上の規定	就業規則及び雇用契約書に個別記載
テレワーク担当部署	主に就労継続支援A型サービス事業
テレワーク対象者	希望する者全員
実施者数	23人(常時在宅及び在宅・通所併用)
平均実施日数	月16回以上(概ね週4回以上)

## テレワークの導入・拡大の経緯

2000年の団体設立当時からホームページ作成を障がい者の在宅就労として不定期に開始。  
2008年2月に動画のコメント監視業務を受注した際に、在宅就労を定常的に(毎日)実施するようになった。  
現在は、テレワークで実施可能な業務が増え、5社の業務(主にデータ入力業務)をテレワークで実施している。

## テレワークの概要・特徴

- ・障がい者の在宅就労をテレワークで実施している。
- ・クライアント企業に在宅就労を説明し、理解を得て実施している。
- ・スカイプ及びOffice365等を活用してコミュニケーションをしっかりと取りながら実施している。
- ・2019年度から遠隔操作システムを導入し、テスト運用を行っている。
- ・常時在宅勤務、在宅勤務と通所勤務の併用など一人ひとりの働ける働き方に合わせた働き方を実現している。
- ・在宅就労も通常就労と同様に就労時間を管理して、長時間労働にならないように就業時間管理を行っている。
- ・テレワークでしっかりと仕事ができるかどうか？は、コミュニケーション力がポイントになるので、在宅就労者のコミュニケーションのサポートに力を入れている。
- ・障がい内容と業務内容とのマッチングも重要であり、試行錯誤をしながら適材適所を実現している。

## テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

- ・団体設立当初から障がい者の就労支援には在宅就労が必須と考えて取り組んできた。
- ・重度の身体障がいや車椅子利用、精神・発達障がいなど、何がしかの事情によって在宅でしか働けない障がい者が、在宅就労によって、自立生活を実現している。
- ・また働くことを通じて社会参加も実現している。
- ・札幌のみならず、岩見沢市や帯広市に住む障がい者も在宅就労で働いており、企業が少ない地方ほど在宅就労の価値は大きい。
- ・テレワークで優秀な人材確保を実現している。
- ・2017年6月に、全国の障がい者のテレワークに取り組む企業・団体8団体と「障がいのある方の全国テレワーク推進ネットワーク(全障テレネット)」を設立し、事務局を担っている。多方面から注目されている。